

# 赤十字NEWS

August 2016 Vol.915

<http://www.jrc.or.jp>

8



日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。

## 皇太子同妃両殿下 献血運動推進全国大会にご出席



日本赤十字社名誉副総裁を務める皇太子同妃両殿下が、7月7日に都内で開催された第52回献血運動推進全国大会に出席されました。妃殿下の同大会出席は13年ぶり。式典で皇太子殿下は熊本地震の被災者、遺族へのお見舞いのおことばを述べられるとともに、献血への理解と協力が一層広がっていくことへの期待を表明されました（関連記事2面）。

### CONTENTS

#### TOPICS

##### 第52回献血運動推進 全国大会

日本赤十字社名誉社長  
藤森昭一氏 死去

「第11回赤十字・いのちと献血  
俳句コンテスト」作品募集中！

健康豆知識 あせも

#### TOPICS

##### 熊本地震災害

全国から世界から  
ご支援を  
ありがとうございます

#### SPECIAL

##### 終戦記念日特集

##### 戦争に隠された4つの巨大地震



戦時（昭和19年）に起きた東南海地震後の三原尾鷲市（太田金典撮影）

#### AREA NEWS

##### 沖縄・長野・香川・山口・兵庫 関東甲信越ブロック・福岡 北海道・新潟・静岡

JRC先輩に訊く！

点字投票って知っていますか？

常任理事会開催報告

プレゼント

#### WORLD

##### 広島・長崎への 原爆投下から71年

「核兵器廃絶だけが  
子どもたちの未来を保障できる」

連載

人道支援の現場から②  
中東地域紛争犠牲者支援事業

高原美貴



### 今月の出会い



ヤフー株式会社 社会貢献推進室  
「Yahoo! ネット募金」  
プロジェクトマネージャー  
井手 章博さん

### 「自由な発想で社会貢献の幅を広げたい」

1日の利用者数が約8700万人を数えるYahoo! JAPANで「寄付を募りたい人」と「寄付をしたい人」とをつなげる場所であるYahoo! ネット募金を担当。「インターネットを通じて手軽に寄付を体験する人が増えると嬉しいです」

井手さんは、これまで音楽サービスやスマホアプリ開発の会社などをいくつも手掛けてきた元経営者で、音楽プロデューサーとしても活動してきました。「Yahoo! JAPANに入社して現在の部署に配属された当初は、これまでの経験が活かせるか不安でしたが、社会貢献の分野というのは幅がすごく広い。音楽でもスポーツでも、やりようによってはすべて社会貢献につながる事ができる。そこが面白いですね」と手応えを語ります。

同社がYahoo! ネット募金をスタートしたのは2004年。これまでの12年間で集まった寄付は総額31億円に達します。同サービスを通じて寄付を募る団体も年々増加していて現在約250団体。今年は熊本地震の影響で震災の復興支援に寄付が集まっているといいます。そんな中で、日本赤十字社の活動資金や海外救援金の注目度は？

「日赤へのユーザーの信頼感は特別ですが、個人的には、発信する情報がちょっと難しかったり、敷居が高く感じることもあります。もっと親しみを持ってもらえる工夫はできるはず。そのための面白い仕掛けを僕たちも一緒に考えさせてもらえればと思っています」

#### PROFILE

音楽サービスやスマホアプリ開発の会社などの役員を経て、2008年にヤフー株式会社に入社。「Yahoo! 映画」などを担当し、2012年から社会貢献推進室へ異動。同部署では「Yahoo! ボランティア」「Yahoo! 防災速報」なども担当。

# 第52回 献血運動推進全国大会 名誉副総裁 皇太子同妃両殿下が出席

第52回献血運動推進全国大会が7月7日、日本赤十字社名誉副総裁の皇太子同妃両殿下ご臨席の下、東京都渋谷区の明治神宮会館で開かれ、全国から約700人の関係者が参加しました。大会は、日赤と厚生労働省、開催地の自治体主催し毎年開かれているもので、東京都での開催は32年ぶり3回目。

式典で皇太子殿下は、今後、輸血を必要とする高齢者が増えることが予想されること、若い世代の献血への理解と協力が求められていることを強調。また、そのために若年層に向けて、日赤が取り組むインターネットでの情報発信や学校での献血セミナーに触れ、献血理解の広がりに対する期待を述べられました。

日赤の近衛忠輝社長はあいさつの中で、血液の比重不足などで献血ができなかった人が昨年だけで86万人に上ることを紹介。「国民の健康管理の観点からも、(献血時の)健康へのアドバイスをより充実させていく必要がある」と指摘しました。



また、若年層の献血者拡大に向けて、学校教育へのアプローチを強める考えを示しました。

「誰かの役に立ちたい」  
大学生が体験発表

大会では輸血経験者らによる体験発表も行われました。急性骨髄性白血病の治療で大量の輸血を受けた加藤恭史さん(38)は「献血はいのちのかけらを他人に分け与えること。私の体には数えきれない方々のいのちのかけらが流れていて、輸血後に授かった3人の子どもたちにもそれは受け継がれています」と献血者への感謝を表明しました。

駒澤大学応援指導部「ブルーペガサス」の藤田千穂さん(4年)は「10代、20代の私たちが献血を呼び掛けることで、学生に献血を身近に感じてもらえる」「誰かの役に立ちたい」といふ思いは、応援も献血活動も同じ」と献血推進活動に取り組む思いを語りました。

また、大会では功労者表彰も行われ、昭和天皇記念血液事業基金献血推進賞にJXホールディングス株式会社、同記念学術賞に松本脩三氏が選ばれ、皇太子殿下から賞状が贈られました。

# 日本赤十字社名誉社長 藤森昭一氏死去

## 「愛・地球博」 赤十字パビリオンに尽力

日本赤十字社前社長で現名誉社長の藤森昭一氏が6月25日午前8時59分、敗血症のため東京都渋谷区の日本赤十字社医療センターで、お亡くなりになりました。89歳。葬儀・告別式は7月1日、東京都中央区の築地本願寺で行われました。

藤森氏は長野県松本市出身。昭和25年東京大学法学部卒業後、厚生省に入省し、内閣官房内閣参事官室首席内閣参事官、環境事務次官、内閣官房参与などを歴任。昭和63年6月に宮内

庁長官に就任し、闘病生活を送られる昭和天皇に仕えました。昭和天皇崩御の後には「大喪の礼」、天皇陛下の「即位の礼」を取り仕切りました。

平成8年1月に退官され、同年3月には宮内庁参事に就任。平成17年まで務めました。平成11年、長年の功績により、勲一等旭日大綬章を受章しています。

日赤社長には平成8年4月に就任。有珠山噴火(平成12年)や新潟県中越地震(平成16年)など各地に相



次いだ自然災害の被災者救護活動の指揮を取りました。平成17年に愛知で開催された「愛・地球博」では赤十字パビリオンの実現に尽力。開催期間中には天皇皇后両陛下、皇族方のご観覧を仰ぎ、来館者数は47万人以上に上りました。同年3月社長の職を辞され、同年4月に日本赤十字社名誉社長の称号を贈られました。

日赤関係者ら多くの人が参列した告別式では、日赤を代表して近衛忠輝社長が弔辞を読み、「激動の時代の節目節目で、余人をもって代え難い、数々の重要な役割を、公人として担ってこられました」「血液事業で安全対策や運営体制の大幅な見直しが行われた折り、職員陣頭に立つて士気を鼓舞し範を示されました」と故人をしのびました。

# 「第11回 赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」作品募集中!

生活の中で感じた、いのちの尊さや感動体験などを五・七・五に表現してみませんか——日本赤十字社が主催する「第11回 赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」では10月14日まで作品を募集中です。

平成18年にスタートし、今年で11回目を迎えた同コンテストは、若い世代の献血者数が減少傾向にある中、俳句を通じて、いのちの大切さや献血への理解を若年層を中心に幅広く国民に広げることが目的。

募集作品は、身の周りで感じたいのちの尊さや愛、友

みんなで作れば  
もっと楽しいぞ!

日本赤十字社  
第11回 赤十字・いのちと献血  
俳句コンテスト作品募集

いのちの尊さ、愛、友情、助け合い、感動などについて思うこと、感じたことを俳句で表現してください。

応募期間  
2016 6月13日①  
10月14日②

募集要項など詳しくは特設ホームページ  
(http://www.ken-haiku2016.jp/) をご覧ください。

募集要項など詳しくは特設ホームページ  
(http://www.ken-haiku2016.jp/) をご覧ください。

## 知って良かった! 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

### ②6 あせも予防は汗のコントロールから

松江赤十字病院 皮膚科部長 和久本圭子

大量に汗をかいたときに汗腺がふさがり、皮膚の下に汗が溜まってしまふ状態が汗疹(あせも)です。この溜まった汗によって水膨れになったり、炎症を起こして赤いブツブツが生じたりします。額や首、背中、肘や膝の裏側などにできやすく、かいた場所から雑菌が入り、化膿することもあります。

「あせも」と聞くと、子どもの病気と思いがちですが、男女に関係なく大人でも発症します。暑い時期に外で仕事をされている方など、汗をかく環境にいらっしゃる方は要注意です。

予防で一番大切なのは、汗の管理です。汗をかくことは体温調整に必要な生理現象ではあるのですが、大量の汗をいつもかくような生活は避けた方が望ましいでしょう。部屋の温度や湿度を適正にすること、外から帰ってきた際には汗をきちんと拭くことなどを心掛けましょう。また、着る服も汗を吸収しやすく、風通しがいいものを選ぶようにします。お風呂やシャワーで汗を洗い流し、皮膚を清潔にすることも大切です。

あせもから他の病気に発展することはありません。かゆみを伴わない軽度の場合は、自然に

治ってしまいます。しかし、かゆみがある場合にはかいて悪化し、治りにくくなってしまふこともありますので、かゆみや赤いブツブツの症状が出てきたときには、皮膚科にご相談ください。適正な汗の管理を併せて行えば1週間程度で治ることがほとんどです。

赤い発疹や水疱があせもではなく、別の皮膚病というケースもあります。ステロイドを塗っても状態が改善しないようなときも、皮膚科にご相談ください。



▲辛いものなど刺激物は、かゆみを悪化させるので要注意です

松江赤十字病院  
〒690-8506  
島根県松江市母衣町200  
TEL 0852-24-2111 (代表)

平成28年熊本地震災害

全国から世界から 温かいご支援 ありがとうございます

熊本地震災害で被災された方々に向けて、日本赤十字社は全国、世界の皆さまから心もった義援金や海外救援金が寄せられています。ご支援に心より感謝を申し上げます。

今回の震災にあたり日赤は、発災直後から6月30日までには救護班を延べ207班、dERU(仮設診療所)を開設できる装備と医師・看護師・薬剤師などの要員14人程度で構成を3カ所に展開するなどの医療支援



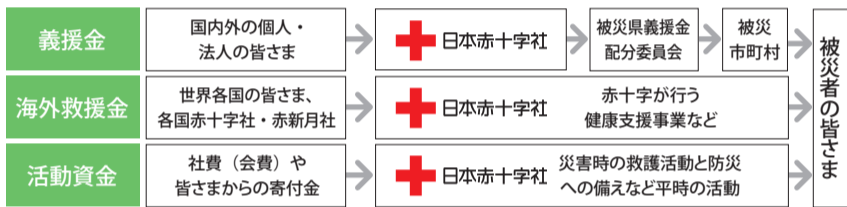
1億4000万円の救済金の申し出がありました。これらを財源として、避難所の生活環境改善や、高齢者や母子を対象にした健康支援事業などを進めてきました。



義援金について

家族を失ったり、自宅に大きな被害を受けた方々が、生活再建に向けて一歩を踏み出すための支えとなるのが義援金です。被災県の義援金配分委員会に送られた後、各市町村を通じて全額が被災された方々に届けられます。熊本地震災害で日赤は、6月30日までに集められた206億1022万4109円を熊本県と大分県の配分委員会へ送金しています(7月25日現在)。

義援金、海外救援金、活動資金の流れ



平成28年熊本地震災害義援金

Table with 2 columns: Category and Amount/Status. Rows include: 受付状況 (232億7,297万7,826円), 送金状況 (206億1,022万4,109円), 受付期間 (平成29年3月31日まで), 受付口座 (郵便振替), and 口座番号 (00130-4-265072).



「田植えを頑張って、全国に感謝を届けたい」

益城町で農業を営む 坂井謙二さん(64)、寛美さん(67)

自宅が全壊したのが本当に辛かったですね。腰痛が中々治らなかつたりするのも、その精神的なショックからきているのかなって。これから仮設住宅に移りますが、家電製品なども揃えなければならぬし、家の建て直しにもどれだけお金がかかるのか...先を考えると不安です。そんな中、全国の皆さんからの支援は本当に心強かったです。義援金もこれからの生活に大切にに使わせていただきます。実は今日も避難所の体育館から田植えに行ってきました。用水路が壊れてしまい、周囲からは「今年は無理」って言われたんですけど、何とか応急処置をしました。こういう時だからこそ、ちゃんと米を作って、頑張っている姿を皆さんに届けたいと思っています。



みなし仮設での生活スタートに義援金活用

自宅が全壊した阿蘇郡西原村の 奥野美樹さん(39)

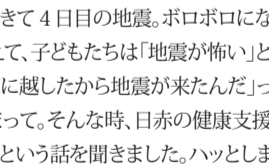
避難所生活で辛かったのは、自分の居場所がなかったこと。安らげる場所がありませんでした。3人(7歳、2歳、7カ月)の子どもたちも震災後、親の側を離れられなくなるなど不安定になりました。ですから「子育て広場(日赤が支援した"からいも広場")」は嬉しかったですね。子どもたちのことを相談できましたし、ママ友とも再会でき、自分の居場所ができたと思いました。義援金にも感謝しています。隣町のみなし仮設住宅(アパート)に移る際に、買い直さなければならないものが結構あって、一部を使わせていただきました。今の願いは、西原村に帰ることですが、全壊した自宅の取り壊しは順番待ちで、建て直しの目は立ちません。先が見通せないのが不安です。



健康支援事業の取材で気付いた被災者の自分

KKTくまもと県民テレビディレクターの 彌上孝太さん(34)、知子さん(42)、蒼柁くん(7)、芽衣沙ちゃん(4)

自宅被害は軽度でしたが、新築に越してきて4日目の地震。ポロポロになった壁や床がショックでした。それに加えて、子どもたちは「地震が怖い」と一人で部屋に入れなくなったり、「こんな家に越したから地震が来たんだ」ってぐずる毎日でした。僕も妻もまいってしまっ。そんな時、日赤の健康支援事業の取材で、先生から「子どもは親の鏡」という話を聞きました。ハッとしまし



たね。実は一番イライラしていたのは僕だったんです。被災者になると、周りが見えなくなるんですね。今回、日赤さんやボランティアの皆さんに熊本へ来ていただきましたが、外部からの目で見られるアドバイスをいただけることも支援の大きな役割だと実感しました。



Advertisement for '熱海ゆとりあの郷' (Notohama Yutori Anohosonaka). It features the logo of '社会福祉法人黎明会' (Seimei Kai) and '介護付有料老人ホーム' (Nursing care fee-for-profit elderly home). The text describes the facility's location in Notohama, Shizuoka, and lists its features: scenic views, 24-hour care, and various services. It includes contact information: phone number 0120-058-211, website http://www.yutoria.net, and address in Notohama. There is also a section for '特別見学会の日程' (Special Open House Schedule) for August and September.



# 「震災を知ること、防災の『わがこと意識』を高めよう」

兵庫県立大学 准教授 木村玲欧さん

Q 戦争で隠された地震を今、掘り起こす意味は  
どこにありそうですか？

東日本大震災以降、海溝型の巨大地震によって「誘発」される、内陸型の地震に注目が集まっています。実は東南海地震と三河地震がまさにこの関係。南海トラフで発生した海溝型の東南海地震に誘発されて、内陸型の三河地震が起きました。今、南海トラフを震源とする新たな地震が心配されていますが、この過去の2つの地震を知ることが、次の巨大地震に備える上でも大切です。

Q 2つの地震の被害は当時、  
軍が情報を隠蔽したと言われています

その結果として被害が拡大したと思っています。例えば、東南海地震による誘発地震は37日後の三河地震だけではなく、三河地震の数日前にも大きな前震が起きています。地震研究は戦前から行われていたので、もし東南海地震の後に「誘発地震が発生する可能性」や「前震後に本震がくる可能性」が報道されれば、傷んだ建物からの避難も行われ、三河地震で2000もの方が死ぬことはなかったかもしれません。また、被害が隠されたことにより、外部からの支

援が寄せられなかったことも被災者を苦しめました。

Q 十分な救援活動は行われなかったのですか？

それぞれの震災の体験者インタビューを数百人行いましたが、誰かに助けてもらったというよりは、自分自身や家族、地域の力で対応が主でした。軍医が来てくれた、軍人が救助や片付けを手伝ってくれたという証言もありますが、限定的な地域でのケースが多いです。また、私のインタビューでは「日赤に救護してもらった」という証言は聞けませんでした。当時はいかに日赤であろうと、単独で救護班を被災地に送り込むことは困難だったはず。特高や憲兵に連行されかねなかったのです。したがって、軍や行政に同行しての救護活動だったため、赤十字が住民の意識に残らなかったのかもしれない。

Q 隠蔽された影響は今も続いていますか？

数年前ですが、愛知県の小学校が三河地震を題材に防災授業を行いました。ところが子どもが親にそれを伝

えたところ、「三河地震なんて起きていない。ウソだ」と言われて子ども自身がびっくりしたという話があります。終戦後も東南海地震や三河地震は、戦争からの復興や高度経済成長の陰に隠れてしまい、長い間忘れられていました。そのため地域でもあまり語りつがれておらず、貴重な防災教訓として残っていないのです。

Q 過去の震災を知らないことで、防災が「ひとごと」になってしまうのですか？

防災に本気で取り組むには、一人ひとりの災害・防災への「わがこと意識」が大切。そのためには、①災害で何が起きたのか（現実性）、②地域で何が起きたのか（地域性）、③人びとがどんな被害に遭い、どう乗り越えたのか（人間性）——の3つがポイントだと考えています。東南海や三河だけでなく各地の災害記憶の掘り起こしや伝承、体験者の証言、ハザードマップの作成・活用などを進め、防災への「わがこと意識」を高めて欲しいですね。

Q 「気づき」を態度目標の一つに掲げる青少年  
赤十字(JRC)も防災教育に力を入れています

防災教育を進める上での問題は「大人」です。私が各地で防災の講演をする際にも「今まで起きなかったのだから大丈夫」と耳を貸さない方が少なからずいます。ただし「今まで起きなかった」と「これからは起きない」ことに何の関連性もありません。21世紀前半の大災害時代を生き抜くために、学校での防災教育には親や地域の大人を巻き込んでいただき、地域の防災力向上につながることを願っています。

木村 玲欧（きむら れお）  
兵庫県立大学 環境人間学部 / 大学院環境人間学研究科准教授  
（専門：防災心理学、防災教育学、社会調査法）  
1975年東京都生まれ。早稲田大学卒業、京都大学大学院修士。博士（情報学）（京都大学）、認定心理士、専門社会調査士。名古屋大学大学院環境学研究科助手・助教などを経て、2011年より現職。主な研究として、災害時の人間心理・行動、復興・復興過程、歴史災害教訓、効果的な被災者支援、地域防災力向上手法など、「安全・安心な社会環境を実現するための心理・行動、社会システム研究」を行っている。

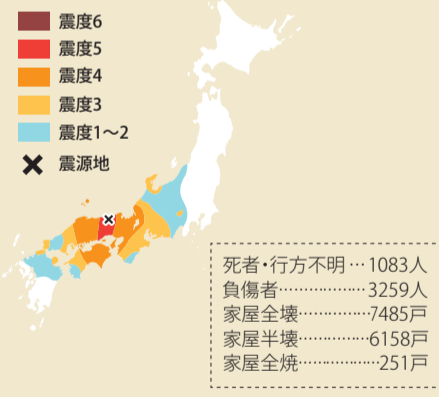
## 終戦記念日特集

# 戦争に隠された震災から 今学ぶことは――

アジア・太平洋戦争中の昭和18年から終戦翌年の昭和21年にかけて、日本は4年連続して大地震に襲われました。いずれも死者・行方不明者が1000人を超える甚大な被害を出しています。ところが、昭和19～20年の東南海、三河の2つの地震は、軍による報道管制により被害が隠蔽され、戦後も長く忘れ去られていました。戦時救護に忙殺される中において、日赤は災害救護活動を展開できていたのか。そして戦争に隠された震災から、今私たちは何を学ぶべきなのか。「終戦の日」を迎える8月を機に考えます。

## 終戦前後の4地震 死者・行方不明者は6000人

日本赤十字社が初めて震災救護を行った明治24年の濃尾地震以来、死者・行方不明者が1000人を超えた地震は12回。そのうちの4回が終戦前後の4年（昭和18～21年）に集中しています。日本は、かつてない地震活動期に襲われていたのです。



死者・行方不明	1083人
負傷者	3259人
家屋全壊	7485戸
家屋半壊	6158戸
家屋全壊	251戸



担架に乗せられた要救助者を看護（鳥取市歴史博物館所蔵「鳥取大震災史」より）

### 「戦争士気が低下する」と被害隠蔽 ― 東南海地震、三河地震

東南海地震は昭和19年12月7日に紀伊半島の沖合（南海トラフ）で発生したマグニチュード7.9の巨大地震です。東海地方を中心に関東から中国、四国までの広い範囲で揺れを観測し、愛知県と静岡県の一部では現在の震度7に相当する揺れに見舞われたと推測されています（震度7は昭和24年に新たに設けられた階級）。

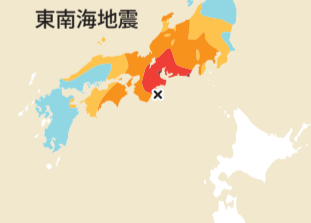
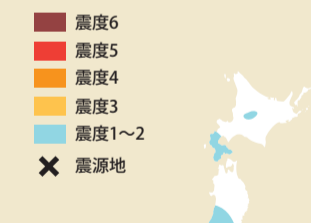
数万戸の家屋が全半壊し、中京工業地区の工場も壊滅的な被害を受けました。また、太平洋沿岸各地を襲った津波は、三重県尾鷲など熊野灘沿岸で9メートルの高さを記録。死者・行方不明者は1251人（資料により諸説）に上っています。

それから約1カ月後の昭和20年1月13日に愛知県の三河湾沿岸部を襲った三河地震でも震度7の強い揺れを観測。マグニチュードは6.8と比較的小規模でしたが、東南海地震で傾いていたところへの追

い打ちで、瞬間的に倒壊した家屋が多く、死者・行方不明者は1961人（資料により諸説）に達しました。

この2つの地震に対し、被災地の日赤支部が救護班を派遣、被災者救護に当たったことが各支部で記録されています。東南海地震では、静岡支部（当時の呼称）が6班を派遣し、同支部浜松診療所も災害救護に奔走。愛知支部は2班の救護班が300人の負傷者を救護しました。また、三河地震では同支部救護班が1カ月にわたる活動で延べ4000人を救護しました。

しかし、その詳細な記録はほとんど残されておらず、日本赤十字社の「社史稿第5巻」も昭和19年の救護活動は空欄に。鳥取地震のとき以上に徹底した情報統制が敷かれ、被害状況や救護などに関する情報を外部に伝えることが一切禁じられていたからです。



東南海地震後の三重県津市内にある岩田橋（太田金典撮影）

東南海地震	死者・行方不明	1251人
	負傷者	2971人
	住家全壊	1万6455戸
	住家半壊	3万6590戸
	住家流失	2912戸
	住家流失	1万2156戸

三河地震	死者・行方不明	1961人
	負傷者	896人
	住家全壊	5539戸
	住家半壊	1万1706戸
	非住家全壊	2614戸
	非住家半壊	3932戸

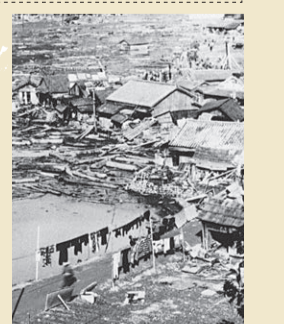
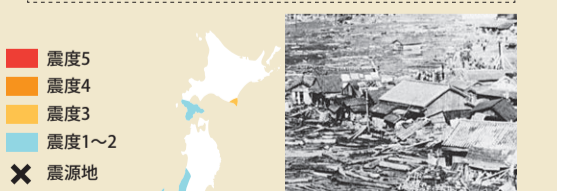
三河地震後の精米製粉製麺工場（原田三郎撮影）

### 戦後初の災害救護も詳細は不明 ― 南海地震

昭和21年12月21日、終戦翌年の年末に中国・四国地方を中心とする広い範囲を襲った大地震が南海地震です。マグニチュードは8.0で、震源は紀伊半島の沖合の南海トラフ。高知県や和歌山県の沿岸部は、高さ3～6メートルの津波にも襲われました。死者・行方不明者は1432人を数えました。

最大の被害を受けた高知県では、高知赤十字病院が救護班を派遣したほか、院内でも徹夜で負傷者を救護。また、山口支部も救護班を高知県に派遣しています。しかし、戦後の混乱期ということもあり、救護活動全体の詳細な記録は残されていません。

死者・行方不明	1432人
家屋全壊	1万1591戸
家屋半壊	2万3487戸
家屋全壊	2598戸
家屋流失	1451戸
家屋浸水	3万3093戸



南海地震後の国道56号付近（須崎市提供）

【震度分布図は気象庁、被害データは新編：日本被害地震鑑、日本被害津波鑑より】

#### 回顧録 鳥取赤十字看護専門学校「88年の歩み」より抜粋

忘れる事の出来ない18年9月10日の鳥取大震災でした。それは本当に唯生きていられたのが奇跡としか言いようがないほどの凄惨なありさまでした。こんな時こそ日ごろ培った救護精神が必要とばかり、後にして思えば何

をどうしたのかも思い出せないほど必死で働きました。戦時中の出来事、詳しい情報は一切知られず唯一生懸命に被災者の救護に当たりました。そんな時期に私のクラスメートが満洲へ救護班として出発しました。心に

大きな不安を抱きながら、見送りは涙涙の別れとなりました。そして敗戦、若くて満州の地に散った友、九死に一生を得て引き揚げて来た友、厳しく苦しめてくれた友の切断を、大病院の医師と共に

#### 回顧録 鳥取赤十字看護専門学校「88年の歩み」より抜粋

不眠不休の状態で、着たまふ、立ったままの仮報召集を受け、工兵隊のトラックに乗りまだ地面の揺れ動く現地に着きました。西尾病院は無事残り、病院の庭にむしるを敷きつめ患者さんがいっぱいでした。古い家の下敷きになり、手足のぶらぶらの人たちの切断を、大病院の医師と共に

#### 回顧録 名古屋赤十字看護専門学校「半世紀の歩み」より抜粋

昭和19年12月、三河地方地震の救護員として電報召集を受け、工兵隊のトラックに乗りまだ地面の揺れ動く現地に着きました。西尾病院は無事残り、病院の庭にむしるを敷きつめ患者さんがいっぱいでした。古い家の下敷きになり、手足のぶらぶらの人たちの切断を、大病院の医師と共に

不眠不休の状態で、着たまふ、立ったままの仮報召集を受け、工兵隊のトラックに乗りまだ地面の揺れ動く現地に着きました。西尾病院は無事残り、病院の庭にむしるを敷きつめ患者さんがいっぱいでした。古い家の下敷きになり、手足のぶらぶらの人たちの切断を、大病院の医師と共に

#### 回顧録 愛知支部「100年史」より抜粋

班員、資材を乗せ午後3時出発したバスは途中家々に道を阻まれて、午後8時頃現地へ到着し、公民館に詰めかけている負傷者の治療をすぐ始めた。昼間見る現地の様子は悲惨なものだった。余震は続き、ゴォー、ゴォーと音が続いてグラグラと何回もゆれる。朝から晩まで手当に来る患者さんは、毎日100

人以上であった。しかし、破傷風発病の人があっても血清がないなど、看護する者としては辛く心が重かった。患者さんを収容しているために看護婦は二人一組で隔日の夜勤をした。しかし、人手が足りないのでみんな体まず頑張った。10日間くらい勤務して名古屋大学医学部の方々と交代して引き上げた。

### 「困ったときは声を上げよう」 障がい者の避難所生活

長野県

災害時の避難所生活を障がい者など要援護者の立場で考える講演会が7月9日に駒ヶ根市内で開かれ、長野県支部の健康生活支援講習指導員、奥原ます子さんが「震災に学ぶ避難所生活の問題と対策」と題して講演しました。



風呂敷を使ったリュックサック作りや新聞紙を利用するゴミ入れ作りの実技もありました

講演会は、障がいのある子どもの保護者が集う「親と子学び・育ちの会まねきネコ」の主催。奥原さんは障がい者の避難所生活での課題として食物アレルギーやトイレへの対応などを指摘した上で、困った時には「はっきりと助けを求める声を上げて欲しい」と語りました。参加者からは「自分たちから声を上げる大切さが理解できた」などの声が寄せられました。

### 「慰霊の日」を前に子どもたちが戦争体験を聞く

沖縄県

日赤安謝福祉複合施設の児童館は「沖縄慰霊の日」を控えた6月16日、同施設デイサービスの利用者で沖縄戦を体験した新里初子さん(82)にお話を聞く平和学習を開きました。67人の子どもたちはアニメ映画「対馬丸」の撃沈シーンを見た後、新里さんに当時の様子を聞きました。



貴重な体験談に子どもたちは平和の大切さを感じていました

真剣に聞き入る子どもたちからは「爆弾が爆発して怖かったと思う」「戦争が起きないように友達と仲良くし、協力し合いたい」など感想が寄せられました。お話し会のあと、子どもたちは地域の方々が祭られている安謝安守之塔に千羽鶴を奉納し、手を合わせて平和を祈りました。

### 地域に広がるAED 交番やコンビニにも

兵庫県/山口県

兵庫県支部は5月18日、救急医薬品750セットとAED(自動体外式除細動器)20台の交番などへの設置を兵庫県警察に委託しました。県警への救急箱委託は昭和33年度に始まり、平成23年度からはAEDの設置委託もスタート。これまでに96台を設置してきました。



救急箱を設置している交番は「赤十字マーク」が目印

山口県支部では、株式会社セブン-イレブン・ジャパンとの協定に基づき7月15日、山口市内の同店舗に第1号のAEDを設置。店員を対象にしたAED講習も行いました。



24時間営業のコンビニだから夜間も安心!

### 災害時の活動能力向上へ 救護員主事が研修会

香川県

香川県支部は6月16日、「平成28年度支部施設合同救護員主事対象研修会」を県内で開催しました。災害時に救護員として活動する主事・スタッフ16人が参加。熊本地震の経験を踏まえ、救護班の初動から撤収まで振り返る講義とともに、業務用無線や衛星携帯の使い方、クロノロジー(時系列記録)、救護車両操作など主事が任務とする基本的な知識・技術を再確認しました。



災害発生を想定して救護員は実践的な研修に取り組みました

今回は特に、熊本地震での救護活動でも活躍した「DRASHテント」の展開を訓練。空調設備など機能性に優れた新型のテントを災害発生時に円滑に展開できるよう、全員でパーツを確認しながら作業を進めました。

### 81歳、現役です! 九州初の女性水上安全法指導員

福岡県

女性として九州で初めて水上安全法指導員の資格を取得した佐々木マサエさん。81歳になる今も現役で赤十字水上安全法講習会での指導や、後輩の育成に当たっています。



講習会ではプールの監視や陸上での指導などを担う佐々木さん

太宰府市にお住まいの佐々木さんが指導員になったきっかけは、子ども会の世話で海水浴に行った際に保護者が海中でけがをしたことや、近所の子どもがボートから転落して溺れる事故などに遭遇したこと。「こんなときに役立つ救助法を知っていたら」と思い、講習会を受講しました。指導員歴は今年で40年。人生の半分を赤十字とともに活動してきた佐々木さんは「今後もできる限り指導を続けたい」と笑顔で語ります。

### 黒板アートで伝える献血の大切さ 高校生が制作・展示

関東甲信越

東京スカイツリータウン・ソラマチにある献血ルームfeelで、埼玉県立新座総合技術高等学校2年生の4人が6月16日から4日間かけて黒板アートを制作し、7月31日まで展示されました。タイトルは「青空に描く想い」。空の雲から生まれた「献血」を象徴するハート形の風船が風に乗って広まる様子を描いたもので、若い世代に献血が広まってほしいという思いが込められています。feelでは今後も関東甲信越の高校生に「献血・いのちと助け合い」をテーマに黒板アートを制作してもらい、展示する予定です。



献血の大切さを伝えたいと奮闘したチーム「こくばんびと」の4人



制作風景を見た献血者からは「未来を感じる」との感想も

### 大雨災害に備える防災教育 各支部が工夫しながら推進

静岡県/山口県

静岡県支部と同県青少年赤十字指導者協議会は6月16日、「平成28年静岡県青少年赤十字校長(副校長・教頭)研修会」で気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする」を開催。グループワークでは「気象情報が刻々と変化する中で、避難所に避難するというテーマにどのように対応するか」について真剣な討議を行いました。参加者からは「今日学んだことを学校運営に生かしたい」などの感想が出されました。



地元(静岡)の民放テレビ局のキャスターが司会、静岡地方気象台調査官が解説を行った研修会

下関地方気象台や日本気象予報士会西部支部とともに「いのちを守る防災教育を推進する会」を結成した山口県支部は、昨年度から「大雨防災ワークショップ」を活用した防災教育を県下各地で推進しています。そのモデル地域の防府市で6月27日、市内の小・中学校の教職員を対象にワークショップの進め方についての研修会を開きました。



「災害時に子どもたちが自分たちで考えられるようにしたい」と真剣に取り組む参加者

### 水防演習で炊き出し 名寄市赤十字奉仕団

北海道

北海道や関係市町村などが主催する水防演習が6月25日、北海道北部の名寄市内で行われ、名寄市赤十字奉仕団メンバーの27人が炊き出し訓練に取り組みました。演習は毎年行われており、今年は天塩川が危険水域に達するという想定。応急給食班として参加した同奉仕団はあいにくの雨の中、寒さにも負けず、日頃から培ってきたチームワークの良さを発揮しておにぎり820個を作り、参加者に振る舞いました。



名寄市での12年ぶりの水防演習は団員にとっても貴重な経験に

JRC先輩に訊く!

# 青少年赤十字で学んだ奉仕精神

株式会社IHI 相談役(元代表取締役会長) **釜和明**さん

長崎西高校 青少年赤十字クラブOB

総合重機メーカーIHI(旧・石川島播磨重工業)の会長を平成24年から務め、今年6月末に同社相談役に就任した釜和明さんは、高校時代に青少年赤十字(JRC)で活動したOB。「入学した長崎西高校で友人に誘われて青少年赤十字クラブに入りました。そこでの活動を通じて奉仕の精神を学ばせていただきました」と当時を振り返ります。

釜さんの高校時代はちょうど東京オリンピックの前後。当時のJRC活動はどんな様子だったのでしょうか。「駅の清掃を手伝ったり、献血への協力を街頭で呼び掛けたり、養護施設を訪問して障がい児と交流もしました」。今も昔もJRC活動の基本に変わりはないようです。

JRCで培った奉仕精神は、大学進学後も衰えることなく、点字サークル活動を通じて、視覚障がい者の支援にも関わりました。釜さんの机の上には今も点字で書かれた真っ白な卓上カレンダーが置かれています。

平成19年からの社長時代はたいへん厳しい経営環境下に会社が置かれていて、社員には「規範性・倫理性の高い会社になろう」を目標の1つとして訴え続けたそうです。「社長の報酬が半年間ゼロの時もありましたが、それでも5年間頑張ってたのは『従業員のために』という強い思いがあったから」と話します。

「今から振り返れば、JRC活動で自然に浸みついた『奉仕』の精神が少なからず後押ししてくれたためだと思っています。現在、会社が進めている人財活用の多様化についても積極的に支えていくつもりです」と今後に対する思いを語りました。



日本赤十字社の近衛社長(右)は先日、IHI本社を訪問。160年にわたって最先端のものづくりを行っている同社の歩みについて釜さんより案内を受けました。IHIは日赤に毎年活動資金を寄せているほか、社員献血にも協力。昨年は「昭和天皇記念血液事業基金献血推進賞」を受賞しています

## 「生き抜く力を」 小学校と地域が一体となり防災学習会

新潟県



5年生の児童は保護者らとともに通学路ハザードマップ作りに取り組みました

青少年赤十字防災教育モデル校の新潟市立東山の下小学校は7月9日、学校と地域が共働で企画・運営する「防災・減災にかかわる学習参観」を核とした防災学習会を実施。「地域の危険性を学び、生き抜く力を身につける」ことを目指したプログラムに、保護者や地域住民が参加しました。保護者らを対象にした学習会では宮城県の小学校教員が東日本大震災の経験を報告。全35学級の防災授業では800人を超す保護者らが参観する中で、青少年赤十字防災教育プログラムを生かし、「津波ってなに?」「災害に備え、準備しておくものはなに?」などを学びました。参観した保護者からは「親自身も防災を考えるきっかけになりました」との声。

## JRC加盟校の児童が寸劇で日頃の活動を発表

静岡県



ソーラン節を踊る開北小学校児童18人

第56回静岡県青少年赤十字(JRC)大会が6月5日に開かれ、加盟校42校の児童・生徒ら470人が参加。JRC活動の発表や防災をテーマにした講演会などが行われました。

平成26・27年度活動研究推進校の沼津市立開北小学校は日頃取り組んでいる活動を、寸劇を交えて発表しました。カラフルなマントに身を包んだ「開北レンジャー」がボランティア活動や地域交流活動などを紹介。同小学校の18人の児童が勇壮なソーラン節を披露して会場を盛り上げました。青少年赤十字防災教育プログラムの制作に携わった松本光司さん(福島県いわき市立好間第一小学校校長)による防災講話も行われました。

**常任理事会開催報告**

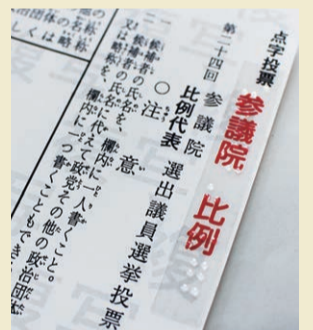
平成28年7月22日、アジュール竹芝において平成28年度第4回の常任理事会が開催されました。

1 予算の補正について  
(大阪赤十字病院の医療機器購入にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正及び日赤安福福祉複合施設の改修工事にかかる社会福祉施設特別会計歳入歳出予算の補正)  
審議の結果、予算の補正については原案のとおり議決されました。

また、広報の取り組み、予算の補正にかかる社長専決事項及び借入金への借り換えにかかる社長委任事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

## 点字投票って、知っていますか? 視覚障がい者のための制度

北海道支部点字図書センター



視覚障がい者のために用意されている点字投票用の投票用紙(協力:北海道選挙管理委員会事務局)

7月10日に参議院議員選挙の投票が行われましたが、目の不自由な人がどのように投票をしているかは、あまり知られていません。

日本赤十字社北海道支部点字図書センターによると、投票所には点字投票用の投票用紙や点字器が用意されています。日本で初めて点字投票が行われたのは大正14(1925)年の普通選挙で、世界初といわれます。点字の読み書きができない視覚障がい者などには「代理投票」という方法もあります。ただし投票所の入場券は点字で書かれておらず、自身も視覚障がいがある同センター職員は「公的機関からの通知に点字を使ってほしいというのは、全国の視覚障がい者共通の望み」と語ります。

## プレゼント

日本赤十字看護大学の各教授(川嶋みどり、川原由佳里、山崎裕二、吉川龍子)共著による『戦争と看護婦』を5名様にプレゼントいたします。戦時救護に従事した看護婦の真実に迫った内容。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字 NEWS 8月号を手にした場所(例/献血ルーム)
- ⑥8月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?(いくつでも)
  - Ⓐ今月の出会い Ⓑ第52回献血運動推進全国大会
  - Ⓒ日本赤十字社名誉社長 藤森昭一氏死去
  - Ⓓ「第11回赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」作品募集中
  - Ⓔ健康豆知識 あせも Ⓕ平成28年熊本地震災害 全国から世界からご支援をありがとうございます
  - Ⓖ特集 戦争に隠された震災 Ⓖエリアニュース
- ⑦JRC先輩に訊く! ⑧点字投票って知っていますか? ⑨プレゼント
- ⑩広島・長崎への原爆投下から71年 ⑪連載 人道支援の現場から⑫
- ⑬赤十字 NEWS のご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。

応募先 ● 郵 送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 8月号プレゼント係  
FAX/03-6679-0785  
メール/koho@jrc.or.jp(件名「赤十字NEWS 8月号プレゼント係」)

応募締切 ● 8月29日(月)必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

## 「そら博」に親子で楽しい赤十字ブース 熊本、赤十字とつながろう!!

天気予報会社のウェザーニューズが8月6~7日に幕張メッセ(千葉県)で開催する「そら博2016」に日本赤十字社が親子で楽しめるブースを出展します。

そら博は、空や天気、気象に関連する実験・体験などを通じて、子どもたちに理科に興味を持ってもらったり、防災・減災に関心を広げてもらうというイベント。日赤ブースは「空はつながっている。心もつなげよう」をコンセプトに、熊本の被災地とのネット中継や、パネル展示などを行います。入場料はWeb事前登録で無料(登録なしは1000円)。ご家族、お友達を誘ってご来場ください。



会場は幕張メッセ国際展示場5ホール(JR京葉線海浜幕張駅)、開場時間は各日10:00-17:00



# 広島・長崎への原爆投下から71年 国際赤十字が世界に訴える ～核兵器廃絶だけが 子どもたちの未来を保障できる～

広島・長崎への原爆投下から71年。今年5月にはアメリカの大統領として史上初めてオバマ大統領が広島を訪問し、「核兵器のない世界を目指す勇気を持たなくてははいけません」と訴えるなど、核兵器廃絶をめぐる新たな機運が高まりつつあります。5月30日には赤十字国際委員会 (ICRC) のペーター・マウラー総裁と、国際赤十字・赤新月社連盟 (連盟) の近衛忠輝会長が「人類の未来を守るため、各国は即座に行動を」とする共同声明を発表しました。赤十字を中心にしたこの間の核廃絶への動きをまとめました。

## 被爆の瞬間から始まった 赤十字の取り組み

昭和20 (1945) 年の8月。広島と長崎に落された2発の原爆。すさまじい閃光とともに町は廃墟と化しました。強烈な熱線と放射能、爆風に襲われた人びとは逃げる間もなく、一瞬のうちにいのちを落とした人や、激しい苦痛にさいなまれる人も。

日本赤十字社による想像を絶するような救護活動はこの瞬間から始まりました。



広島原爆救護の証言集『きのこ雲：日赤従軍看護婦の手記』雪永政枝・他著 オール出版、昭和59年 (赤十字情報プラザ蔵)

奇跡的にいのちを永らえた日赤の救護員、医師、対策本部職員たちの中には、被災直後から自分たちのけがを押して、放射能の脅威にもかかわらず生存者の救護に当たった人も少な

くありませんでした。

中には、あまりの現状に精神的なバランスを失って自殺した医師、後に原爆症で亡くなった救護員も数多くいました。戦後、自分の死を悟った病床の救護員たちによる、数少ない貴重な証言が現在も残されています。

「茫然としていた私を我に返らせたのは、そこそこからの救いを求める悲痛な声であった。看護婦も全員が負傷し、白衣を血で染めながら、倒壊した病舎の下敷きとなっている傷病兵を救い出すのに懸命だった」(山本 (笹木) つや子)

日赤の原爆救護活動は、人類にとっても極限ともいえる悲惨な状況の中で、ひとつの救いとなる事実として残っています。

## 核廃絶への人道的アプローチ

戦後、国際赤十字は核兵器の非人道性を国際社会に訴えてきましたが、米ソ冷戦による核軍拡の中、必ずしも大きな声にはなりません。しかし1996年、国際司法裁判所が「核兵器の威嚇・使用は、国際人道法の基本原則に一般的



核兵器に関する赤十字ワークショップの参加者

に反する」という勧告的意見を発表。2010年にはICRCのヤコブ・ケレンベルガー総裁 (当時) が核廃絶を世界に訴えたことで、人道的観点からの焦点が当てられたのです。

赤十字代表者会議は2011年に「核兵器は国際人道法と両立しない」と決議。2013年には核廃絶へ向けた4カ年行動計画を採択しました。今年の春には、国連核軍縮公開作業部会の直前にこの行動計画に基づく赤十字ワークショップがジュネーブで開催されました。日赤からは国際部の永積企画課長が出席し、偶発的事故などによる核爆発のリスクを各国赤十字社がそれぞれの国の政府に訴えていく必要性を指摘。それに向けた資料作成などをICRCに要請しました。

また、ワークショップで各国赤十字社は、政府や議員、市民への働きかけを強め、核廃絶交渉のための枠組みを期限を決めて設定することの重要性を確認しました。国際赤十字を代表してトリニダード・トバゴ赤十字社社長は、国連核軍縮公開

作業部会でこの確認事項を人道の名の下に訴えました。

## 核廃絶の国際協定を提起

ICRC総裁と連盟会長による共同声明は、こうした一連の動きの中で、核兵器廃絶への歩みを加速させる役割を持って出されたものです。

過去70年間、偶発的・意図的な核爆発の危険に世界が晒され続け、近年ではサイバー攻撃による核リスクが増加していることなどを指摘しています。また被爆による長期的健康被害や遺伝リスクなど「核爆発から生き残った人びとを救う有効な手立てや実行可能な方策を、私たちは持ち得ていません」と警鐘を鳴らしています。

その上で「核兵器の使用を禁止し、時間の制約を設けた上で核廃絶を行う国際協定」を提起。「核兵器の禁止と廃絶だけが、子どもたちの未来を保障できる」と訴えています。



日赤本社にて 左:近衛忠輝連盟会長 (日赤社長)、右:ペーター・マウラーICRC総裁



高原 美貴  
Miki Takahara

連盟 中東地域紛争犠牲者  
支援事業 (ヨルダン)

## 私たち日本人が見て見ぬふりをしているはずがない 人道支援の現場から

いまヨルダンにある国際赤十字で、ヨルダン赤新月社を通じたシリア難民への人道支援を行っています。担当する「地域保健・救急法」は、シリア難民や、彼らの受け入れにより影響を受ける地元の人たちが健康でいられるよう、病気の予防や早期対応のための知識の普及、支援を行う取り組みです。

先日ヨルダン赤新月社の保健ボランティアとともに、シリア難民を訪ねた時、激戦地となったシリアのアレッポから避難してきた一人の男性と出会いました。深く刻まれたしわが目立ち、70代にも見えたが、聞けば私と同じ50歳。難民の過酷な体験と今も続く苦悩を垣間見た気がしました。

世間話のつもりで子どものことを聞くと「二人が殺され、二人が行方不明。残る一人はトルコからドイツに行こうとしている。孫たちも、ここで一緒に身を寄せている二人以外は行方不明だ」。男性には高血圧と糖尿病の持病がありますが、避難生活の中で医療費の余裕はありません。二人の孫たちが学校に行けるのかも心配の種だといいます。「紛争はすぐに終わると思っていたが、こんなことになるなんて…」と力なく語るその目は遠くを見つめていました。

シリア紛争が始まった2011年以降、ヨルダンには65万人以上の難民が逃げてきました。終わりの見えない紛争にすべてを奪われてしまった人たち。そうした難民の皆さんとの出会いを通じて、「たまたま平和な国の平和な時代に生まれたからといって、私たち日本人が見て見ぬふりをしているはずがない」と日々自分に言い聞かせています。

「シリアは世界で一番美しいところ。早く帰りたい」。難民の皆さんからそうした言葉をよく聞きます。それが現実になる日まで、保健ボランティアたちとともに支え続けたいと思っています。

### 中東人道危機 救援金受付中

受付期間 平成29年3月31日 (金)まで  
受付口座 ゆうちょ銀行 郵便局  
口座番号 0110-2-5606 口座名義 日本赤十字社

※振替用紙の通信欄に「中東人道危機」とご記入ください。  
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます。

詳細は、日本のホームページ [検索](#) [日本赤十字社](#) [中東人道危機救援金](#) をご覧ください。